

平成 29 年 2 月
東洋大学地域活性化研究所長 古屋秀樹
(国際地域学部国際観光学科 教授)

ご挨拶

この度、東洋大学地域活性化研究所報第 14 号を刊行する運びとなりました。研究所の活動を担った研究員、執筆者の方々をはじめ、活動にご協力いただいた地域住民の皆様、自治体をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。研究所では、平成 27 年度からの継続テーマである「地方創生への足掛かり～ **Region Talks, Acts, Produces**～」のもと、研究所事業として板倉町、明和町、川越市における活動を、受託研究として東京都北区、群馬県館林市、栃木県大田原市において活動を行い、それらの成果について本所報で報告致します。また、加えて、各研究員の地域活性化に寄与する研究活動報告を掲載しておりますので、あわせてご一読いただければ幸いです。

さて、2016 年 12 月 31 日、国勢調査（2015 年実施）の結果が示されましたが、日本の総人口は約 1 億 2709 万人で、前回の調査から日本人のみでは約 107 万人減少（総人口では 96 万人減少）と調査開始以降初めて減少に転じたとのこと。これまでの人口趨勢とは異なる中で、よりよい社会を構築していくため「一億総活躍社会」が提示されています。

そこでは、労働供給増加と時間あたり賃金上昇による可処分所得の上昇、ひいては GDP の増加が狙いとされています。しかしながら、勤勉な蜂ばかりを集めても、期待した効果が上がらないという「働き蜂理論」が示すように、その道筋は容易ではありません。特に、地方部では人口減少と超少子高齢社会の一層の進展により、生産性の向上や新たな価値を早急に見出すことが求められています。

さて昨年、日本の観光振興をどのように進めれば良いのかという問題意識を持ち、米国の観光振興組織にヒアリングする機会がありましたが、そこでは住民が **Public** へ貢献する活動を数多く見ることができました。NPO や NGO など、プライベート (**Private**) と仕事 (**Official**) との境界空間である **Public** 領域に対して主体的に関わり、行政の届かない領域に手を差し伸べ、創意工夫を通じて地域の差別化を実現するとともに、その活動によって住民自らの喜びや達成感が醸成される事例を間近に見ることができました。ハーバード大学のイチロー・カワチ教授は、自治体活動などによる「お互いさま」や「持ちつ持たれつ」といった連帯意識のことを「ソーシャル・キャピタル」とよび、その活動水準が高いほど、寿命にも影響を及ぼすことを指摘しています。人々のネットワークが、人と人との更なる結びつきを作り出し、他人に寄与できるという「包摂」「互酬性」が大きな効果を生み出すとともに、新たな活動の場を創出という循環が生まれます。事例調査を通じて、日本と異なる一面を垣間見ることができ、これらの活動は日本の「地方創生」実現に向けた方法論の 1 つと位置づけられるとともに、「域学連携」の重要性に他ならないと確信しました。

地域活性化の実現には、多くの困難があり、まだ道半ばですが、研究所として今後も精力的に取り組むたいと考えています。来年度は、研究テーマとして新たに「エビデンスに基づく地域の健康づくり」、「地域活性化に向けた包括的な研究」を設定し、学部横断的かつ社会に大きな意義を持つ研究を推進する予定です。

皆様方のお一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

目 次

I. 研究所活動報告

「川越昭和の街」の地域資源の活用による観光振興に関する研究

..... 研究員：小瀬 博之、尾崎 晴男
客員研究員：齋藤 伊久太郎・・・ 7

知的障がい者を対象とした運動教室実施と健康管理法の提案

..... 研究員：高橋 珠実、大上 安奈・・・ 13

板倉町と連携した『科学的根拠に基づく食育指導および運動評価』の実践

..... 研究員：川口 英夫、太田 昌子、大上 安奈、高橋 珠実・・・ 18

II. 地域活性化研究所受託研究

館林市つつじが岡公園の運営等に関する調査研究報告

..... 研究員：古屋 秀樹・・・ 27

観光振興に関する調査研究事業について

..... 研究員：古屋 秀樹・・・ 32

大田原市の観光振興に関する受託研究報告

..... 研究員：古屋 秀樹、須賀 忠芳
客員研究員：井上 博文・・・ 37

東京都北区における外国人ウェルカム商店街の取組

..... 研究員：中挾 知延子、村田 由美恵・・・ 51

III. 研究員および客員研究員の研究報告

重度肢体不自由者が住み慣れた地域で居住を継続するための課題

..... 客員研究員：山田 義文・・・ 59

農村アメニティの保存と利活用による地域活性化対策

..... 客員研究員：吉永 健治・・・ 64

地域資源の再評価と地域の活性化

..... 研究員：高橋 一男・・・ 70

IV. 資料 77

- ・地域活性化研究所の目的・運営方針・事業
- ・平成 28 年度運営委員会の構成と会議・研究所事業等開催記録
- ・「研究所だより」第 5 2 号
- ・研究員名簿

V. 地域活性化研究所のあゆみ 95

1. 地域活性化研究所と板倉キャンパスの沿革
2. 地域活性化研究所歴代所長
3. 研究活動

I . 研究所活動報告

II. 受託研究報告

Ⅲ. 研究員および客員研究員の研究報告

IV. 資料

地域活性化研究所の目的・運営方針・事業

目的

人文・社会・自然科学の各研究分野の融合を図り、国際的な視野のもとで変化する地域の問題、環境と開発の問題等を研究し、それらの解決策を見出してゆくことによって、地域活性化に貢献することを目的とする。

運営方針

- ① 研究者・地域に開かれた、オープンな研究環境を実現する。
- ② 産・官・学・民の連携を図り、地域の活性化を促す。
- ③ 世界に開かれた、情報発信基地を目指す。
- ④ 学部・学科などの枠組みを越えて、学際的な共同研究プロジェクトを推進する。

主要な研究事業

- ① まちづくり、福祉施策、中心市街地活性化、観光振興、財政問題等、各種サービス行政・住民および民間との連携のあり方を地域に密着して究明する。
- ② 環境共生社会の実現のため、支援ツール、社会的コスト、グローバルモデルなどの基礎的研究を実施する。
- ③ 定住環境形成、観光交通問題、歴史的都市の活性化などの学際的分野に挑戦する。
- ④ 開発途上国のコミュニティ計画、環境衛生、多民族社会の問題などを通してアジアのまちづくりを研究する。
- ⑤ 環日本海の観光インフラ調査、邑楽地域一帯の観光資源調査など、地域活性化のための国内外にわたる観光研究を進める。
- ⑥ 地域活性化のための生命科学に関する研究を進める。
- ⑦ 国内外の関連学会、大学、研究機関等との多角的な交流・提携ならびに研究成果の交換と共有化を進める。
- ⑧ 講演会・シンポジウム・研究会等を企画・開催する。

平成28年度運営委員会の構成と会議・研究所事業等開催記録

1. 運営委員会の構成

所長	古屋 秀樹	国際地域学部国際観光学科	教授
運営委員	村田 由美恵	国際地域学部国際地域学科	講師
運営委員	川口 英夫	生命科学部生命科学科	教授
運営委員	高品 知典	生命科学部応用生物科学科	准教授
運営委員	高橋 珠実	食環境科学部食環境科学科	准教授
運営委員	大上 安奈	食環境科学部食環境科学科	講師
運営委員	小瀬 博之	総合情報学部総合情報学科	教授

2. 運営委員会開催記録

第1回	平成28年4月9日(土)
第2回	同 5月7日(土)
第3回	同 6月11日(土)
第4回	同 7月9日(土)
第5回	同 9月2日(金)
第6回	同 9月24日(土)
第7回	同 10月29日(土)
第8回	同 12月3日(土)
第9回	平成29年1月21日(土)
第10回	同 2月20日(月)
第11回	同 3月22日(水) (予定)

3. 広報事業

- ① 「研究所だより」の発行 年1回
- ② 「地域活性化研究所報」の発行 年1回(3月)
- ③ ホームページの公開 <http://www.toyo.ac.jp/site/irvs/>

平成28年度 東洋大学地域活性化研究所 研究員一覧

研究員

NO	名前	所属	職	主要専門分野
1	小川 芳樹	経済学部・総合政策学科	教授	環境経済、エネルギー
2	大坪 宏至	経営学部・会計ファイナンス学科	教授	管理会計
3	山下 りえ子	法学部・企業法学科	教授	民事法
4	芦沢 真五	国際地域学部・国際地域学科	教授	国際教育交流、比較教育
5	安 相景	国際地域学部・国際地域学科	教授	土地・住宅問題、都市計画、地域開発
6	池田 誠	国際地域学部・国際地域学科	教授	社会システム動学
7	北脇 秀敏	国際地域学部・国際地域学科	教授	国際環境協力
8	坂元 浩一	国際地域学部・国際地域学科	教授	発展途上国の開発計画
9	高橋 一男	国際地域学部・国際地域学科	教授	社会学、メディア論
10	中挟 知延子	国際地域学部・国際地域学科	教授	情報科学、多文化、多言語社会での社会ネットワーク分析
11	藤井 敏信	国際地域学部・国際地域学科	教授	都市計画、居住環境計画
12	村田 由美恵	国際地域学部・国際地域学科	講師	日本語教育
13	小早川 裕子	国際地域学部・国際地域学科	講師	都市計画、地域開発、社会関係資本論
14	小池 鉄夫	国際地域学部・国際観光学科	教授	外食産業論
15	東海林 克彦	国際地域学部・国際観光学科	教授	観光レクリエーション施設計画論、景観論、環境評価論
16	須賀 忠芳	国際地域学部・国際観光学科	教授	社会科教育学、社会科教育実践研究
17	古屋 秀樹	国際地域学部・国際観光学科	教授	観光交通計画、観光行動論、まちづくり
18	堀 雅通	国際地域学部・国際観光学科	教授	交通論、公益事業論
19	松園 俊志	国際地域学部・国際観光学科	教授	旅行産業と宿泊産業の経営環境
20	梁 春香	国際地域学部・国際観光学科	教授	国際観光開発、環日本海地域の国際観光
21	島川 崇	国際地域学部・国際観光学科	教授	観光マーケティング
22	森下 晶美	国際地域学部・国際観光学科	教授	旅行マーケティング、旅行産業の経営戦略
23	金 承珠	国際地域学部	助教	観光資源管理、観光地振興
24	金子 律子	生命科学部・生命科学科	教授	神経生物学、細胞工学
25	川口 英夫	生命科学部・生命科学科	教授	脳科学、行動科学、細胞工学
26	清水 文一	生命科学部・生命科学科	教授	天然物化学、植物生化学
27	長坂 征治	生命科学部・生命科学科	教授	生物有機化学、植物分子生理学
28	廣津 直樹	生命科学部・生命科学科	准教授	作物生理学、光合成の環境応答
29	梅原 三貴久	生命科学部・応用生物科学科	教授	植物生理学
30	柏田 祥策	生命科学部・応用生物科学科	教授	環境健康科学
31	山本 浩文	生命科学部・応用生物科学科	教授	植物生化学、植物代謝学、生薬学
32	三浦 健	生命科学部・応用生物科学科	准教授	応用微生物学
33	高品 知典	生命科学部・応用生物科学科	准教授	応用微生物学、極限環境微生物学
34	清水 和哉	生命科学部・応用生物科学科	准教授	水処理微生物学、水道工学、環境修復・保全学
35	吉永 淳	生命科学部・応用生物科学科	教授	環境保健学
36	大熊 廣一	食環境科学部・食環境科学科	教授	食品工学、バイオセンサ
37	佐藤 順	食環境科学部・食環境科学科	教授	食品衛生学、食品微生物学
38	下村 講一郎	食環境科学部・食環境科学科	教授	植物細胞工学、植物資源学
39	福森 文康	食環境科学部・食環境科学科	教授	分子生物学、酵素学
40	和田 直久	食環境科学部・食環境科学科	教授	光生物学、量子生物化学
41	太田 昌子	食環境科学部・食環境科学科	准教授	調理科学、栄養学
42	高橋 珠夷	食環境科学部・食環境科学科	准教授	健康スポーツ科学、保健学
43	玉岡 迅	食環境科学部・食環境科学科	准教授	微生物分類学、微生物生態学、機器分析
44	大上 安奈	食環境科学部・食環境科学科	講師	運動生理学、環境生理学
45	角田 伸代	食環境科学部・健康栄養学科	教授	脂質栄養、臨床栄養
46	林 清	食環境科学部・健康栄養学科	教授	食品科学
47	藤澤 誠	食環境科学部・健康栄養学科	准教授	微生物学、分子生物学
48	勝瀬 義仁	理工学部・建築学科	講師	地域計画、建築企画設計
49	望月 修	理工学部・生体医工学科	教授	生物機械、液体工学、流体騒音
50	尾崎 晴男	総合情報学部・総合情報学科	教授	交通計画、都市計画
51	杉本 富利	総合情報学部・総合情報学科	教授	ヒューマンインタフェース、認知工学
52	小瀬 博之	総合情報学部・総合情報学科	教授	環境まちづくり、給排水衛生設備、景観工学

客員研究員

NO	名前	所属	職	主要専門分野
1	秋谷 公博	長崎短期大学	特任講師・AP 業務コーディネーター	都市計画、開発社会学、日本学
2	井上 博文	東洋大学	名誉教授	地域観光振興、観光組織、観光事業
3	岡崎 渉	東洋大学	名誉教授	応用微生物学、酵素科学、香粧品化学
4	KLAYSIAEW. K	東洋大学国際地域学研究所国際観光学専攻	博士(国際観光学)修了生	観光学
5	川澄 厚志	金沢星陵大学経済学部	講師	都市計画、コミュニティ開発、開発社会学、コミュニティツーリズム
6	清原 徹二	㈱新社会システム総合研究所	取締役	憲法、行政、食育、農業、医療社会福祉、情報政策
7	金 銀真	東京大学先端化学研究センター 環境造形学園専門学校ICSカレッジオブアーツ	協力研究員 非常勤講師	都市史・アジア・近代
8	久留島 守広	福岡工業大学東京イノベーションセンター	センター長	エネルギー・資源
9	小浪 博英	一般社団法人 国土政策研究会	専務理事	都市工学、地域計画、観光振興、国際協力
10	齋藤 伊久太郎	千葉大学大学院工学研究科	技術補助員	都市計画、まちづくり、アメニティ
11	佐藤 成美	東洋大学食環境科学部	非常勤講師	食品学、生物学、科学コミュニケーション
12	竹内 章悟	元・東洋大学国際地域学部教授	—	地域振興、地域産業政策、中小企業政策
13	張 長平	元・東洋大学国際地域学部教授	—	人文地理学、地理情報科学、地理空間分析
14	長濱 元	東洋大学	名誉教授	社会学
15	藤井 哲	ムンディファーマ(株)	マーケティングマネージャー	健康と栄養に関するコミュニケーション
16	古田 富彦	元・東洋大学国際地域学部教授	—	安全・危機管理学、ヒューマンファクター、防災、エネルギー、地域婚活
17	松浦 茂樹	建設産業史研究会	代表	国土学・河川学
18	松尾 宏	水土地域工房・敬愛大学国際地域学部	代表・非常勤講師	景観地理学、河川流域史、地域の文化的景観・土木遺産研究
19	山田 義文	元・東洋大学ライフデザイン学部	助手	建築計画、福祉住環境
20	吉永 健治	外国招聘教授	—	ゲーム理論、環境経済学、農村地域開発論、国際協力論

V.地域活性化研究所のあゆみ

1. 地域活性化研究所と板倉キャンパスの沿革

- 平成 9(1997)年 4 月 板倉キャンパス設置：国際地域学部国際地域学科、生命科学部生命科学科
 平成 13(2001)年 4 月 国際地域学部国際観光学科新設、大学院国際地域学研究科、生命科学部生命科学科開設
 平成 14(2002)年 7 月 地域活性化研究所設置
 平成 21(2009)年 4 月 国際地域学部を白山第 2 キャンパスへ移転
 生命科学部に応用生物科学科、食環境科学を設置、3 学科体制となる。
 地域活性化研究所室を板倉キャンパス 1 号館内に、
 また、分室を白山第 2 キャンパスに設置
 平成 24(2012)年 4 月 国際地域学部の白山移転に伴い分室を白山キャンパスに設置
 平成 25(2013)年 4 月 食環境科学部食環境科学科および健康栄養学科を設置し、
 生命科学部生命科学科、応用生物科学科と共に 2 学部 4 学科体制となる。
 平成 25(2013)年 4 月 大学院食環境科学研究科開設

2. 地域活性化研究歴代所長

- 初代所長 小浪 博英 平成 14 年 7 月 1 日 ～ 平成 16 年 3 月 31 日
 第 2 代所長 藤井 敏信 平成 16 年 4 月 1 日 ～ 平成 17 年 3 月 31 日
 (残任期間 長濱 元 平成 17 年 4 月 1 日 ～ 平成 18 年 3 月 31 日)
 第 3 代所長 長濱 元 平成 18 年 4 月 1 日 ～ 平成 20 年 3 月 31 日
 第 4 代所長 中上 光夫 平成 20 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日
 第 5 代所長 岡崎 渉 平成 22 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日
 第 6 代所長 岡崎 渉 平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日
 第 7 代所長 中挾知延子 平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日
 第 8 代所長 古屋 秀樹 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 現在

3. 研究活動

1) 研究所プロジェクト一覧(平成 22 年以降)

年度	研究代表者	研究課題
平成 22 年	秋谷 公博	アジアの都市貧困層におけるコミュニティネットワーク型開発に関する方法論的研究
	川澄 厚志	農村コミュニティにおける地域振興と持続可能性 ータイの産業村開発事業の事例と日本への示唆ー
	島川 崇	韓国における民間療法の観光化への取り組みの実態と日本での地域活性化への応用
	藤井 敏信	アジアにおける持続型都市の形成に関する研究
平成 23 年	秋谷 公博	アジアの都市貧困層におけるコミュニティネットワーク型開発に関する方法論的研究
	川澄 厚志	農村コミュニティにおける地域振興と持続可能性 ータイの産業村開発事業の事例と日本への示唆ー
	島川 崇	韓国における民間療法の観光化への取り組みの実態と日本での地域活性化への応用

平成 24 年	藤井 敏信	農村コミュニティにおける地域振興と持続可能性 ータイの産業村開発事業の事例と日本への示唆ー
	柏田 祥策	渡良瀬遊水地周辺水環境の生物多様性と独自性に関する調査および比較研究
	竹内 章悟	社会環境の激変に対応する渡良瀬遊水地周辺地域の地域活性化活動に関する研究
平成 25 年	竹内 章悟	社会環境の激変に対応する渡良瀬遊水地周辺地域の地域活性化活動に関する研究

2) 事業計画一覧(平成 22 年度以降)

年度	No.	研究代表者	事業名称
平成 22 年	①	高品 知典	親子の食育体験講座 食を学ぶキッチンサイエンス ～酸とアルカリの実験マジック～
	②	小瀬 博之	館林市の暑さ涼しさ体感ツアーと暑さ対策を考えるシンポジウム
	③	森下 晶美	旅が育む家族の絆と人間性 Part 3 ～ 今、“旅育”を定義する ～
	④	太田 昌子	～地産地消を見直そう～ 料理コンテスト
	⑤	薄木 三生	渡良瀬遊水地および周辺の自然・景観学習に関する学習の組織化
	⑥	東海林克彦	谷根千地区等の観光振興に関する支援事業
	⑦	中挟知延子	日仏小学生文化交流プロジェクト
平成 23 年	①	薄木 三生	渡良瀬遊水池地および周辺の自然・景観学習に関する研究の組織化
	②	中挟知延子	地域婚活と地域活性化の諸問題に関する研究
	③	竹内 章悟	商工会議所と観光協会の連携と地域観光振興
	④	東海林克彦	谷根千・白山地区の観光振興に関する支援事業
	⑤	小瀬 博之	「日本一暑いまち」館林の涼しさ・暑さ体感ワークショップ
	⑥	高品 知典	キッズサイエンススクール
	⑦	森下 晶美	旅が育む家族の絆と人間性 Part 4 ～ 今、“旅育”を定義する。乗り越えるべき問題点、課題は何か ～
平成 24 年	①	中挟知延子	地域婚活と地域活性化の諸問題に関する研究
	②	森下 晶美	旅が育む家族の絆と人間性 Part 5 ～旅育の可能性と未来～
	③	薄木 三生	渡良瀬遊水池地および周辺の自然・景観学習に関する研究の組織化
	④	小瀬 博之	「日本一暑いまち」館林の涼しさ・暑さ体感ワークショップ
	⑤	竹内 章悟	商工会議所と観光協会の連携による地域観光振興の強化策
	⑥	高品 知典	キッズサイエンススクール
平成 25 年	①	中挟知延子	地域婚活と地域活性化の諸問題に関する研究
	②	竹内 章悟	商工会議所と観光協会の連携による地域観光振興の推進
	③	薄木 三生	渡良瀬遊水地および周辺の自然・生物に関する調査研究と学習に関する組織化
	④	小瀬 博之	館林市夏の「涼しさマップ」ワークショップ

平成 25 年	⑤	高品 知典	キッズサイエンススクール
	⑥	高橋 一男	群馬県邑楽郡板倉町を拠点とする国際教育交流促進に関する研究
平成 26 年	①	大上 安奈	『自分カラダを知ろう!』健康づくりのための体力測定会 —板倉町の住民を対象として—
	②	川口 英夫	板倉町と連携した『科学的根拠に基づく食育指導』の実践
	③	高品 知典	キッズサイエンススクール 2014
	④	小瀬 博之	川越市連雀町周辺地域を対象とした地域活性化ワークショップ
	⑤	中挾知延子	ソーシャルコミュニティ「地域のお台所」の構築
平成 27 年	①	小瀬 博之	川越市中央通り『昭和の街』周辺地域における「ときめくまち」ウォークラリー 高齢者の住みよい地域づくりに向けて
	②	高品 知典	キッズ&ペアレント サイエンススクール 超高齢社会に向けた大人世代・子供世代への食育活動～親子2世代の食育サイエンス講座
	③	大上 安奈	板倉町在住の高齢者を対象とした健康づくりのための運動教室の開催
	④	川口 英夫	板倉町と連携した『科学的根拠に基づく食育指導』 および『運動機能測定』の実践の実践
平成 28 年	①	小瀬 博之	「川越昭和の街」の地域資源の活用による観光振興に関する研究
	②	高橋 珠実	知的障がい者の運動教室実施と健康管理法の提案
	③	川口 英夫	板倉町と連携した『科学的根拠に基づく食育指導および運動評価』の実践

3) 受託研究一覧

年度	No.	研究代表者	事業名称
平成 25 年	①	古屋 秀樹	館林市茂林寺周辺地域における地域活性化に関する調査研究業務委託
平成 26 年	①	古屋 秀樹	茂林寺周辺観光地化市民等意識調査研究業務委託
平成 27 年	①	古屋 秀樹	館林市における観光振興に関する調査研究業務委託
平成 28 年	①	古屋 秀樹	館林市における観光振興に関する調査研究業務委託
	②	古屋 秀樹	館林市つつじが岡公園の運営に関する調査研究業務委託
	③	古屋 秀樹	観光振興に向けた地域資源の発掘及び観光メニューの検討等
	④	中挾知延子	北区商店街における外国人観光客誘客のための調査研究